

様式 2 新型インフルエンザ等感染症被害想定

(死傷者数、流行期間、ピーク時欠勤率等)

感染想定	感染(罹患)者数	3200万人	(総人口の25%)
	医療機関受診者数	2500万人	
	入院者数	200万人	(感染者入院率 6.25%)
	死亡者数	64万人	(感染者死亡率 2%)
	流行期間	2か月	(1回の流行の波に対し)
	感染ピーク時欠勤率	40%	

※政府参考文献

- ・「新型インフルエンザ対策政府行動計画(平成25年6月)」
- ・「新型インフルエンザ等対策ガイドライン(平成25年6月)」新型インフルエンザ等及び鳥インフルエンザ等に関する関係省庁対策会議
- ・「新型インフルエンザ発生時の社会経済状況の想定(一つの例)(平成21年2月)」

(発生段階ごとの被害想定概要)

		海外発生期	国内発生早期	国内感染期	小康期
感染速度		0~2週間後	2~4週間	4~12週間	12週間後~
感染状況		某国で感染発生	国内で感染者第1号が発生	感染者がピーク	感染者は減少し、一部地域では感染が継続
社員の出勤状況		平常通り	一部で欠勤(家族の感染等)	欠勤率40% 社内感染発生	徐々に出勤回復
社会インフラ	電気・水道・ガス	平常通り	平常通り	一部で支障 (人員不足で対応の遅延等)	平常通り
	鉄道・バス	平常通り	発生地域を中心に一部支障	運航現象 (鉄道等で間引き運行)	徐々に回復
	航空旅客	発生国からの帰国増加 国内空港で水際対策開始	平常通り	平常通り	平常通り
	銀行証券			取扱業務の一部縮小 窓口業務の一部中断	徐々に回復
	外部関係先	平常通り	一部で委託業務の遅延・縮小	委託業務の遅延、中断	徐々に回復

想定としては上記の通りであるが、令和2年1月に感染拡大の動きが始まった新型コロナウイルスは、令和4年9月には感染者数2千万人を超えて全国で感染拡大となった。感染初期の状況とは全く様相がお子なり、常にステージ3以上の対応が求められる状況が長きにわたり継続したことも認識しておく必要がある。